

新刊紹介『ゴッホが見た星月夜』 日経ナショナルジオグラフィック

1. 天文学者が解き明かす名画に残された謎

「今ぼくは星空を描きたくてたまらない。…夜は屋よりもずっと色彩豊かだ」(1888年9月9日付[678])と妹のウィルに手紙を書いたヴィンセント・ファン・ゴッホは、独特のタッチで星空を描きました。躍動的で写実的なゴッホの星空は、しかし多くの謎を呼んできました。

それらの謎に、フランスの著名な天文学者が挑んだ30年来のライフワークをまとめた本(図1)が2024年2月26日に出版されました。実は出版に当たって、私も日本語版の監修に携わっています。

- 『夜のカフェテラス』
- 『ローヌ川の星月夜』
- 『星月夜』
- 『糸杉と星の見える道』
- 『夜の白い家』

など、星空を描いた名画の数々が美しいカラー画像として掲載され、これまでの研究者たちの見解やルミネさんの考察がまとめられています。



図1. ジャン＝ピエール・ルミネ著
『ゴッホが見た星月夜』

2. ジャン＝ピエール・ルミネさん

著者であるジャン＝ピエール・ルミネさん(図2)の経歴はとても興味深いものです。

巻末の著者紹介によると「天体物理学者、小説家、詩人。1951年フランス、カヴァイオン生まれ。専門はブラックホールおよび宇宙論。パリ天文台を経て、マルセイユ天文物理学研究所所属、フランス国立科学研究センター研究名誉部長。天文学の

ほか音楽や芸術のエッセイ、小説など多岐にわたる著作があり、芸術文化勲章オフィシエを授与された」とあります。

ルミネさんはブラックホールや宇宙論が専門の理論宇宙物理学者なのです！

図3は今から45年前の1979年、スーパーコンピュータが無い時代に、ルミネさんが当時のトランジスタコンピュータでブラックホールがどう見えるのかを計算して作成した画像です。なんと手描きですよ！最新のコンピュータシミュレーション画像とそっくりだ！と数年前、話題になりました。

また宇宙のトポロジーについても研究していらっしゃいます。



図2. 著者近影 ©Wikipedia

そんなルミネさんは南フランスのプロヴァンスに生まれ、まさにゴッホが見ていた風景や星空を目にしていました。自分自身も故郷の自然を描く中でゴッホの絵に出会い、その夜空の表現に魅了されたそうです。そして「ゴッホとプロヴァンス地方の星空との特別な関係を細部にわたり分析」(本書p18)したのが『ゴッホが見た星月夜』です。

とてもキレイな本なので、手に取ってみて下さい。

★書籍紹介サイト：<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/product/24/020200011/>

石坂 千春(科学館学芸員)

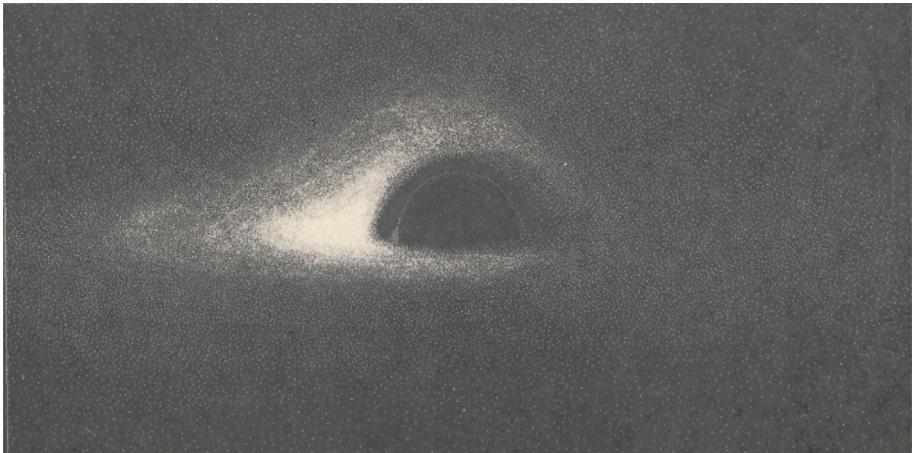


図3. 45年前にルミネ博士が手描きしたブラックホール ©Wikipedia